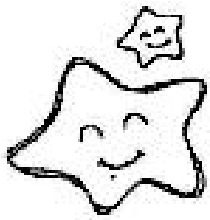
QSK(にぬふぁぶし) 1997 年 9 月 18 日 第三種郵便物承認　通巻 8286 号 2024 年 4 月 17 日 発行　(1)
(毎月 1.2.3.4.5.6.7 がつく日)

QSK にぬふぁぶし

No.326

子(ね)の方向の星(北極星)



書籍のご紹介

『沖縄の精神医療―「ゼロ」から健康で幸福な明日へ』

沖縄タイムス社から、沖縄の精神医療の歴史と現状をまとめた書籍が出版されました。著者は精神科医で琉球大学名誉教授の小椋力さんです。

沖縄の歩んだグスク時代や琉球王朝時代といった歴史も踏まえながら、ユタの文化や沖縄戦といった背景も含む県内精神医療の状況が網羅的にまとめられた一冊です。(もちろん家族会活動についても触れられています)

2部構成の第2部では県内の関係者16名がそれぞれの立場から現状と展望を持ち寄っており、沖福連会長の山田圭吾も筆を寄せています。

小椋力　編著
(沖縄タイムス社、1980 円)

2023年度障害学研究会・九州沖縄部会 沖縄研究集会に参加しました

3月6日と7日、なは市民協働プラザにて「障害学」に関する研究集会があって、沖福連から増山も参加してきました。「障害学」とは、障害のある人の経験や視点を研究することを通して、医療や社会福祉視点による、従来の障害の捉え方からの脱却を目指す試みです。

研究報告では、ピアサポートの現状についてや、施設利用において生じる恥の感情など、両日に幅広いテーマが示されて、議論が深められました。研究の根底には、既存の社会構造に対する挑戦があると思うのですが、参加者には若いメンバーも少なくなくて、大いに勇気づけられる時間となりました。(増山)

「牢屋」（私宅監置小屋）の遺構保存のためのメモ

沖福連理事　高橋年男

私宅監置の問題に光を当てた写真展が取り組まれたのは、2018年4月。会場の沖縄県民ギャラリーには約40点のパネルと監置小屋のレプリカが展示された。

一週間の展示期間に2000人以上の来場があり、最終日のシンポジウムは、210席の講堂に立ち見が出るほどの関心を集めた。呉秀三が私宅監置を告発してちょうど100年目の年だったこともあり、地元紙のみならず全国紙が特集を組み、社説などで歴史の闇、被害の実態と現在につなげる検証を求めた。NHKのハートネットをはじめ、全国ネットでも地元でもテレビ、ラジオ報道が相次いだ。

寄せられたアンケートの、「もっと広く社会に知らせてほしい」「残存する監置小屋を保存してほしい」という声に押されて、2018年暮れに高文研から『消された精神障害者』を出版、2020年には原義和監督制作の『夜明け前のうた　消された沖縄の障害者』（文化庁映画賞）が、全国で劇場上映された。

やんばるの地元において、この問題に対するとまどいが交錯することもあったが、2017年までこの家屋敷で暮らしていた富敏さんが亡くなってからは、誰もメンテナンスをすることのなくなった母屋と監置小屋の遺構は傷みが目立つようになった。今年2月に縁戚の方とともに訪れた時には、屋根瓦が一部崩れ、雨戸の建付けも隙間が急に大きくなり、現場保存は時間との競争になっている。

国、県による公的な歴史検証の現場として、そして現在と将来にわたり、このような非人道的な人権侵害を二度と繰り返さない戒めのための貴重な遺構として、保存する現実的な方策を考えたい。

沖福連宛てに、ご意見をいただければ助かります。

【寄付金／賛助会員加入のお願い】

沖福連では、精神保健福祉に関する知識や考え方の普及啓発、また福祉サービス事業などを通して、誰にとっても生きやすい社会づくりに取り組んでいます。
当会の活動は、みなさまからの賛助会費やご寄付によって支えられております。
今後とも、あたたかいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

賛助会年会費　　個人１口：２千円　／　団体・法人１口：１万円

琉球銀行：南風原支店　普通口座 229887
ゆうちょ：02020-0-37037　（加入者名：公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会）

※沖福連ホームページからクレジットカード決済もできます。

“生きるのがしんどいあなたのためのウェブ空間”

『かくれてしまえばいいのです』の体験記

増山 幸司

自殺対策に取り組むNPO法人ライフリンクによる、子ども・若者向けのウェブ空間『かくれてしまえばいいのです』が、自殺対策強化月間の始まった3月１日に公開されました。

自分がもうとっくに子どもも若者も名乗れない年齢になってしばらく経つことを思いながら、かわいらしいポップなデザインにひかれて覗いてみたので、少しご紹介いたします。

前提としてですが、「かくれが」に入ることができるのは「いましんどい人」だけです。私ももちろんしんどいので、案内人らしきおばあさんにそう伝えると、「オッケー！ じゃあ、すぐにかくれてちょうだい！」とゴンドラで樹上の「かくれが」に連れていってくれました。「かくれが」に参加するのに登録のような面倒くさいことはなにも必要なくて、たとえばメールアドレスなどなくても、誰でもひととおりのコンテンツにすぐ触れることができるようでした。

しんどい気持ちを分かち合う場所があり、先輩の体験談を聞ける場所があり、専門的な相談の入り口になる場所などがありました。もっとたくさんいろいろな場所があるのですが、あまり詳しくは書かないことにします。

「かくれが」で過ごしてみていいなと思ったのは、人とのコミュニケーションをほぼいっさい求められないことでした。画面にはぶらぶらしている人がいっぱいいますが、お互いに干渉したり、メッセージを送ったりもできません。誰でも自由に気持ちを発表できる場所がありますが、それについてコメントをしたりもできません。

人の集うオンラインサービスでありながら、SNSのような他者を意識するための場所とは対極であると感じました。自分を大切にするためのメッセージがあちこちにちりばめられています。

人がときどき必要とする、こういうアジール（聖域、自由領域）のような空間が、気がつけば我々の実社会からは深く失われてしまっているように思います。

「かくれてしまえばいいのです」はこちらから →
https://kakurega.lifelink.or.jp/

2023年度 みんなねっと第4回理事会がありました

3月13日（水）、全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）の第4回理事会がハイブリッドで行なわれて、九州・沖縄ブロックの代表理事として沖福連の山田圭吾も出席しました。

議案には次年度の事業計画と予算案に関することのほか、今後の計画としてみんなねっとの持つさまざまな資料や情報をアーカイブ化する提案などが出され、協議を経てそれぞれ承認されています。

また、淑徳（しゅくとく）大学総合福祉学科・伊藤千尋先生による、「精神障害者家族会の活動に関する調査」があって、速報版としてその報告が紹介されました。

全国15か所の都道府県精神障害者家族会の役員を対象に行なわれた調査研究で、数値的な調べ以外にも、それぞれの抱える課題や、みんなねっとに対する要望、会長になってよかったことなどのインタビューが集められています。

研究を通して、安定・発展傾向にある家族会の要素を抽出すること、またインタビューから肯定的な側面を抽出することで精神障害者家族会の意義を再確認していくことなどを展望しているということです。

全国の家族会で新規会員の減少や会員の高齢化といったほぼ共通の課題が広がっており、維持存続の困難な会も少なくなくなってきているようです。このような流れに抗い、家族会を再び活性化していくために、情報のアーカイブ化の目的もそうですが、全国各地で活動しているひとつひとつの家族会がそれぞれの経験と知恵を持ち寄り、つながりを強めていくことが求められています。

【お詫び】
先月発行のにぬふぁぶし325号の一部で、表裏の印刷において上下が逆になっているものの あることを確認いたしました。みなさまにはご不便・ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

◎編　集　後　記◎

PIERROTという、いわゆるビジュアル系のロックバンドがかつてあって、ある時期には彼らの音楽に触れることが自分にとってのアジールになっていたことがあった。ライブに行くとぼくと同じように彼らの音によってしか人生を救われなかった少年少女が大勢いて、会場にはふだん表出されない闇や狂気が充溢していた。

社会で生きていくためには闇や狂気はたいてい邪魔になるが、かといってぼくたちに不要のものというわけでもない。上手に共存していくための知恵を、当時、音楽だったり文学だったり深夜ラジオだったりが教えてくれた。「かくれが」に触れてそんなことも思い出した。（増山）

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会
会長　山田 圭吾
〒901-1104
沖縄県島尻郡南風原町字宮平206-1
電話098-889-4011　FAX098-888-5655
E-mail　terushino@castle.ocn.ne.jp

発行：九州障害者定期刊行物協会
〒812-0068
福岡市東区社領1丁目12番4号
電話092-753-9722　FAX092-753-9723
定価：10円（会費に含まれる）